

【第4回】はなれ建設工事 進捗状況（R7.12/5発行）

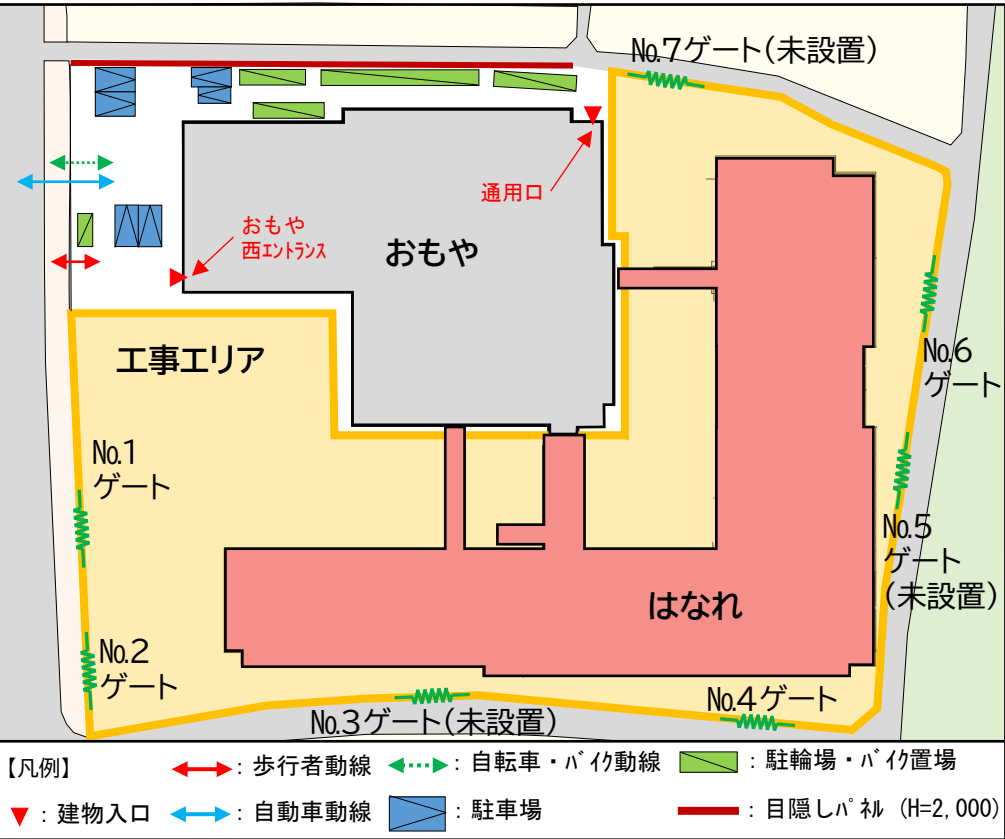
※次回更新
R8.3月下旬予定

作成者：府中市新庁舎建設推進室
大成・三浦 建設共同企業体

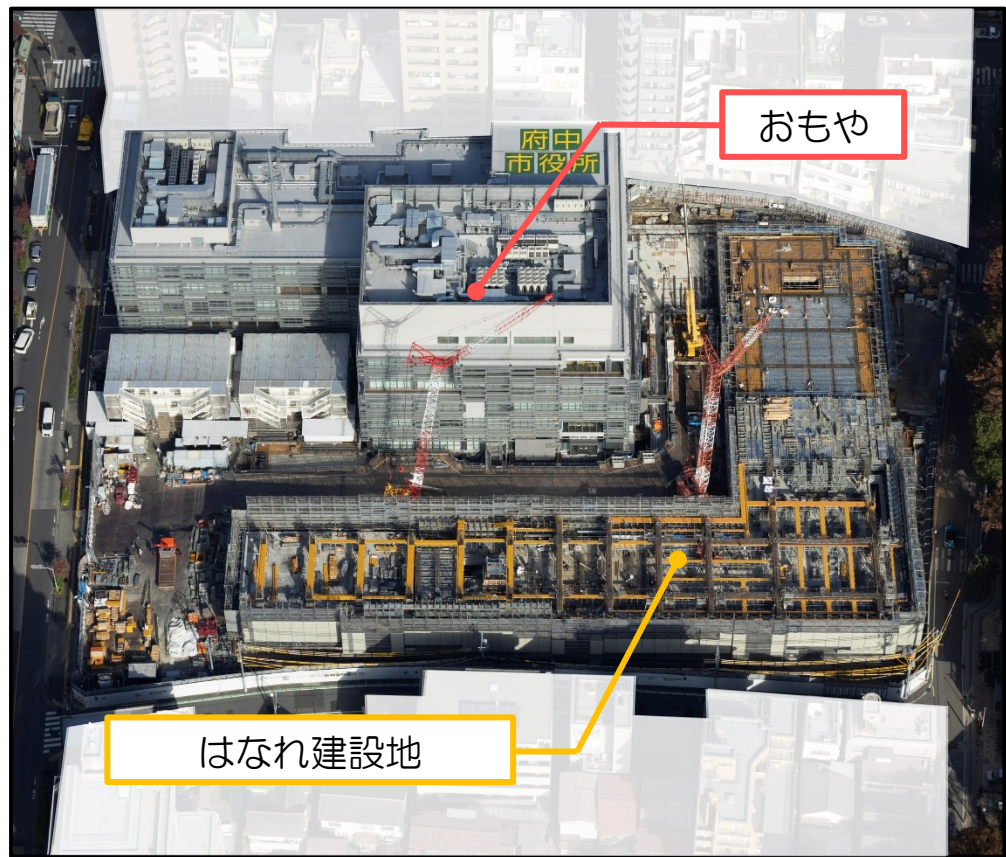
【建物概要】

敷地面積	11,633.89㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,402.17㎡
建築面積	6,388.79㎡

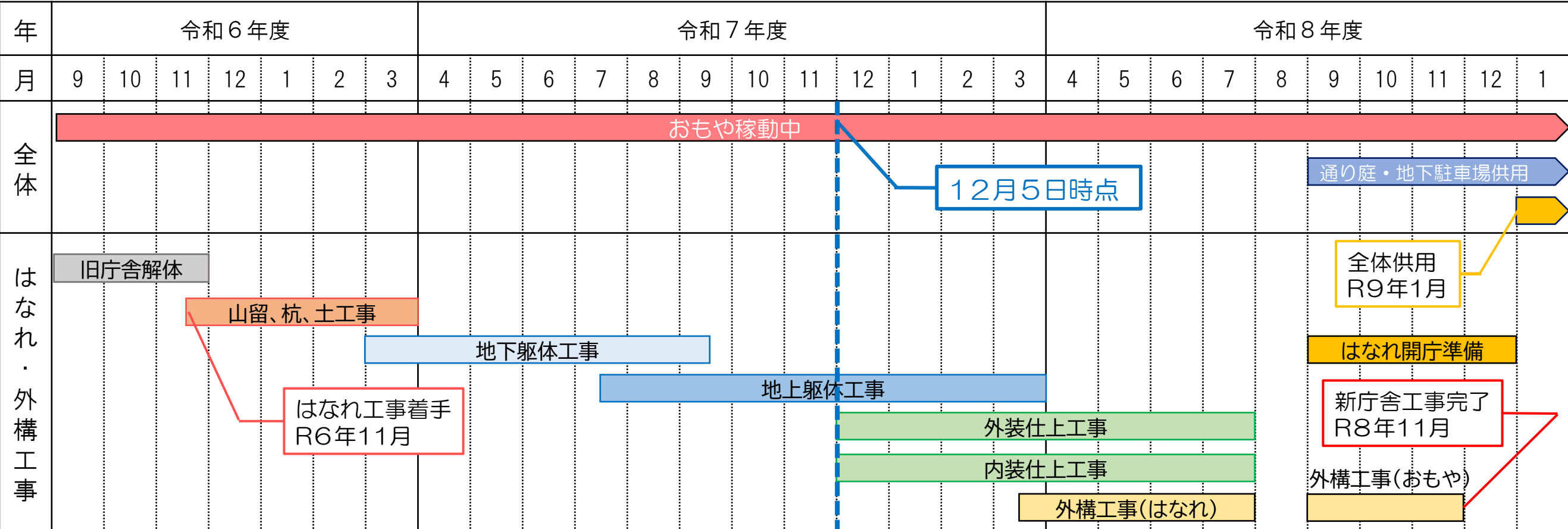
【配置計画（現在）】



【航空写真（R7.11月12日時点）】



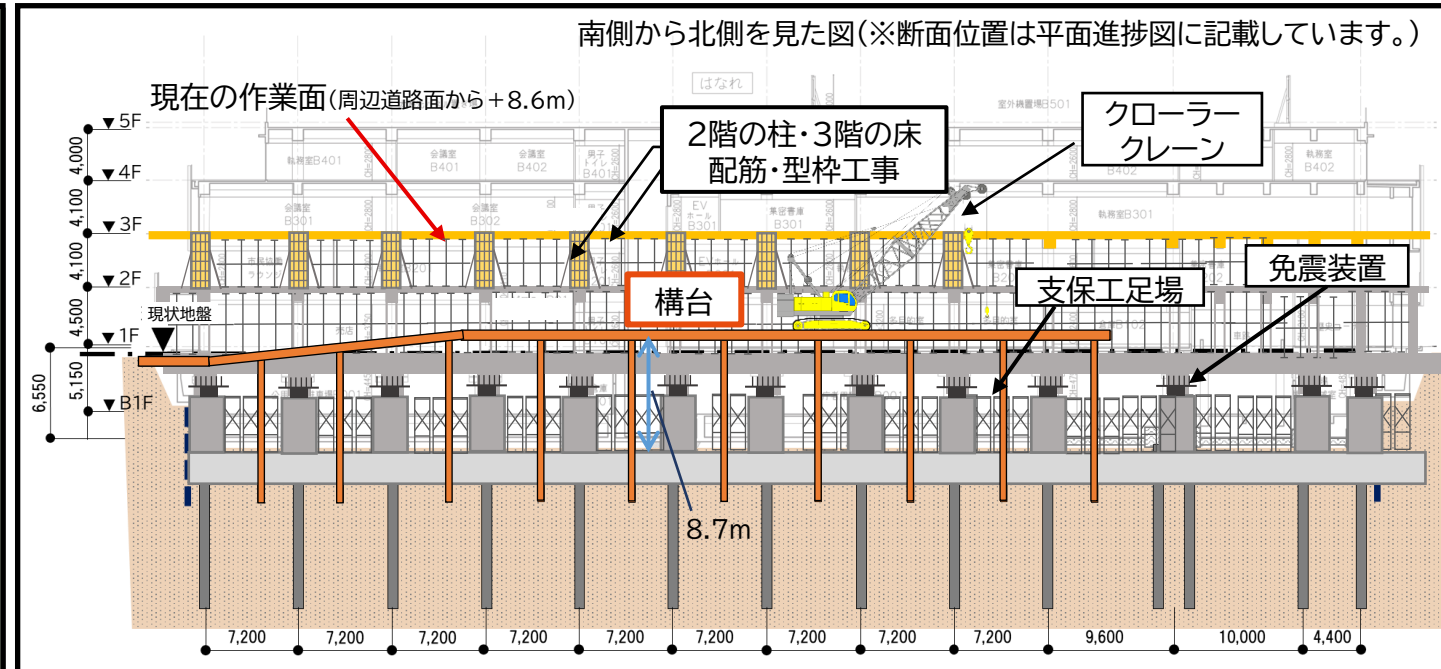
【工程表】



【平面進捗図】



【断面進捗図】

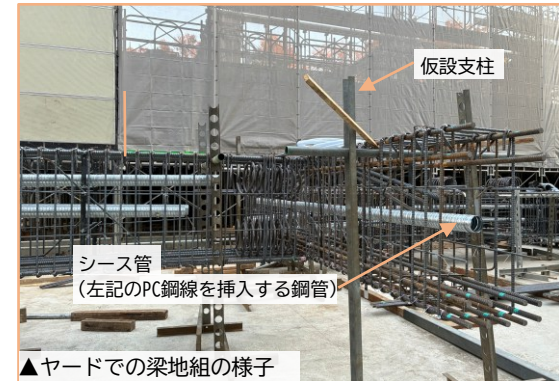


●PC梁 緊張



PC(プレストレストコンクリート)梁は、梁の中に専用ワイヤー(PC鋼材)を設置し、それを引っ張る(緊張)ことで、梁の強度を増し、たわみやひび割れを抑えることができます。従来の梁より柱の数を少なくすることができ、広い空間(大スパン)にも対応できる強くて長持ちする構造を実現します。PC鋼材の緊張には油圧ジャッキを用い、最大280tの力で引っ張ります。

●梁地組工法



梁地組(はりじぐみ)とは、地上で梁の配筋作業を行い、組み立てた梁をクレーンで吊り上げ、柱等と接続する工法です。地上での作業場所が必要ですが、高所での作業を減らすことができるため安全性が高まり、配筋の精度を確保しやすくなります。仮設の支柱を用いて作業を行うことで手順を標準化し、品質のばらつきを抑え、確実に効率的な施工につながっています。

●デッキスラブ

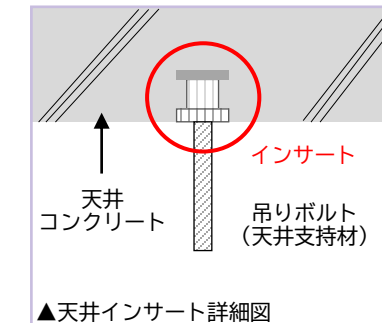
梁の上に波形の鋼板(デッキプレート)を敷き、その上にコンクリートを打設して床(スラブ)を作る「デッキスラブ」は、鋼板がコンクリートの型枠となり、固まった後は床の一部として強度にも寄与します。床の自重を軽くできることで柱や梁にかかる負担を減らし、広い空間づくりが可能となるほか、設備配線の計画もしやすいといった利点があります。



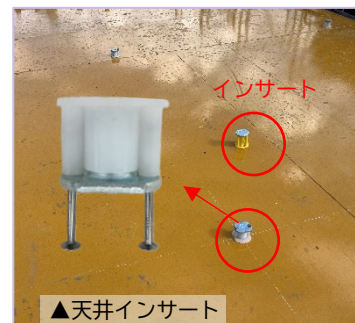
▲デッキスラブトラックでの搬入の様子



●インサートについて

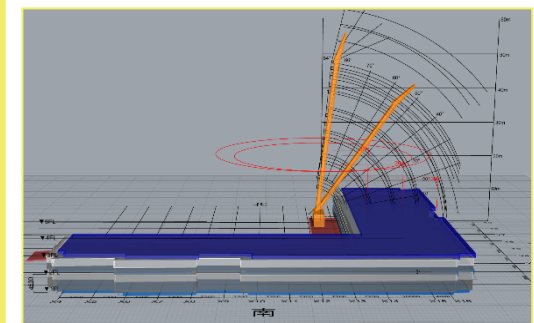


インサートとは、天井や壁・床のコンクリート面に機器や配管・金物を安全に固定するための埋め込み金具です。照明・空調機器などを安全・確実に取り付ける“受け”として機能します。コンクリートの表面に出てくるよう、型枠に設置します。



▲天井インサート

●3Dモデルでのクレーンの検討



3Dモデル上で、クレーンの設置位置、動き、腕の展開、吊るる重さを事前に確認します。角度や距離を可視化して事前確認することで揚重作業の安全性を高めています。